

2019年(平成31年)

1月18日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411(代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カチドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>**■ 概況**

12/27~1/9のNYMEX・WTIは、44.61~52.36ドルの範囲で、一転大きく回復した。

1月10日は、米中貿易協議の進展への期待、米国株価の回復、OPECと主要産油国の協調減産への期待の高まり等を背景に、2010年1月以来9年振りの9営業日続伸を記録した。2月限終値は前日比0.23ドル高の52.59ドル。

週末11日は、週末の利食い売りやドル高・ユーロ安に伴う割高感から、売りが優勢となり、10営業日振りに反落した。米国内石油掘削リグ稼働数は873基(前々週比12基減、前週比4基減)と減少した。2月限終値は前日比1.00ドル安の51.59ドル。

週明け14日は、中国貿易統計で輸出入とも前年同月比減少を示すなど景気減速の懸念が高まり、続落した。ただ、ロシアのノバク、サウジのファリハ両エネルギー相からそれぞれ11日と13日に両国が減産中であるとの発言があり、下げる幅は限られた。2月限終値は前週末比1.08ドル安の50.51ドル。

15日は、世界的な株高や中国政府の景気刺激策採用方針等を背景に投資家の心理の改善により、3営業日ぶりに反発した。2月限終値は前日比1.60ドル高の52.11ドル。

16日は、米国エネルギー情報局(EIA)週報の原油在庫減少・製品在庫増加、週間産油量の史上最高の報告があり、小幅続伸した。2月限終値は前日比0.20ドル高の52.31ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(2月渡し)は12月27日~1月9日の間52.80~58.20ドルの範囲で大きく回復した。1月10日59.80ドル、11日60.50ドル、15日59.00ドル、16日60.00ドルで推移した。

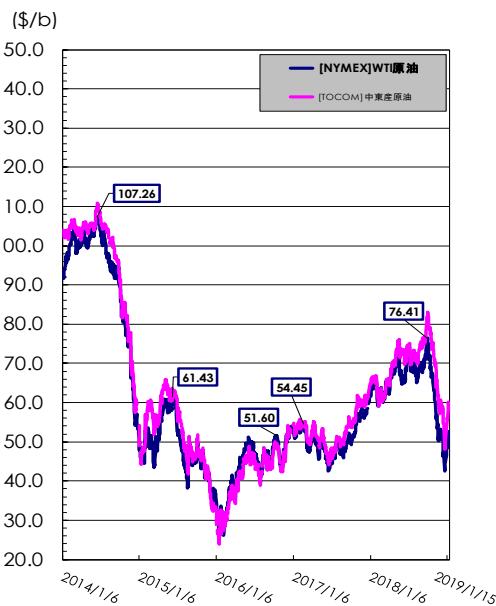
原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	1/6 ~ 1/12	3,677	▲ 22	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	93.9	▲ 0.6	▼ -
	原油在庫量 (千㎘)	1/12	13,155	▲ 312	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	1/15	58.89	▲ 2.74	▼ -7.6
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	1/14	50.51	▲ 1.99	▼ -13.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月中旬	71.28	▼ -5.12	▲ 8.77
	①原油CIF単価 (¥/㎘)	"	50,788	▼ -3,532	▲ 6,584
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.29	▼ -0.27	▼ -0.87
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/15	109.40	▲ 0.12	▲ 2.50

為替は、12月27~1月9日の間107.66~111.13円の範囲で推移した。1月10日108.19円、11日108.47円、15日108.40円、16日108.44円で推移した。

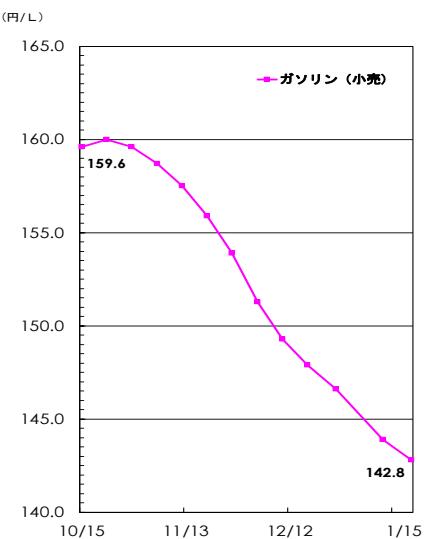
財務省が10日発表した貿易統計(速報・旬間)によると、12月中旬の原油輸入平均CIF価格は、50,788円/kℓで、前旬比3,532円安、ドル建では71.28ドルで前旬比5.12ドル安。為替レートは1ドル/113.29円だった。

主要元売会社の1月第2週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とともに1.0円の値下げと据え置きに分かれた。1月第2週の原油価格は値上がりし、為替レートもわずかに円安で、原油調達コストは値上がりした。

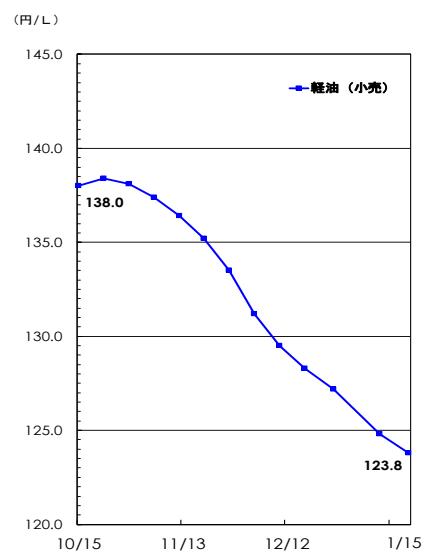
そのような中で、1月15日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.1円の値下がり、軽油も同1.0円の値下がり、灯油も同15円の値下がり(18㍑ベース)だった。ガソリン、軽油、灯油とともに11週連続の値下がりで、1年ぶりに前年の価格水準を下回った。この週(1月第2週)の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とともに、2.5~3.0円の値上げに分かれた。



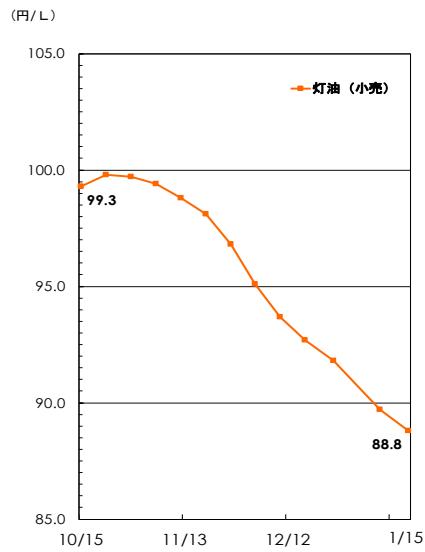
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	生産	1/6 ~ 1/12	985	▲ 15	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	778	▼ -89	▼ -
	輸出	"	95	▲ 15	▲ -
	在庫	1/12	1,813	▲ 113	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/8 ~ 1/14	53.0	▼ -1.1	▼ -8.9
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	1/8 ~ 1/14	49.9	▲ 4.3	▼ -10.1
	(TOCOM/中部)	1/11	52.9	▲ 2.7	▼ -8.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/15	142.8	▼ -1.1	▼ -0.4
	※業転、先物価格は税抜き価格				



軽油		今週		前週比	前年比
需給	生産	1/6 ~ 1/12	752	▲ 76	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	646	▲ 429	▲ -
	輸出	"	124	▼ -83	▼ -
	在庫	1/12	1,861	▼ -18	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/8 ~ 1/14	56.3	▼ -1.4	▼ -5.3
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	1/8 ~ 1/14	59.9	▼ -1.2	▼ -0.1
	(TOCOM/中部)	1/11	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/15	123.8	▼ -1.0	▲ 2.6
	※業転、先物価格は税抜き価格				



灯油		今週		前週比	前年比
需給	生産	1/6 ~ 1/12	430	▼ -51	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	619	▲ 256	▲ -
	輸出	"	13	▼ -7	▼ -
	在庫	1/12	2,277	▼ -201	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/8 ~ 1/14	56.1	▼ -1.0	▼ -7.8
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	1/8 ~ 1/14	56.3	▲ 3.5	▼ -7.2
	(TOCOM/中部)	1/11	58.5	▲ 1.5	▼ -6.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/15	88.8	▼ -0.9	▲ 2.6
	※業転、先物価格は税抜き価格				



■ 関連情報

1 海外/原油

1月16日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)週報の発表を受け、売り買いが交錯し、結果的に小幅に続伸した。午前のEIA週報によれば、11日までの米国原油在庫は前週比270万バレル減と市場予想(同130万バレル)を上回る取り崩しの一方で、ガソリン在庫は同750万バレル増、中間留分在庫は同300万バレル増といずれも大きく上回る積み増しを示した。また、EIAによれば、米国内の週間産油量は日量1190万バレルと史上最高を記録した。2月限終値は前日比0.20ドル高の52.31ドル。3月限の終値は前日比0.22ドル高の52.61ドルだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成31年1月6日～1月12日に休止したトッパー能力は0.0万バレル/日で、前週に対して変化はない。(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は367.7万kLと、前週に比べ2.2万kL増加。前年に対しては15.0万kLの減少。トッパー稼働率は93.9%と前週に対して0.6ポイントの増加、前年に対しては3.8ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.5%増、ジェット/13.4%減、灯油/10.5%減、軽油/11.2%増、A重油/65.8%増、C重油/24.8%増。今週のC重油の輸入は4.7万kL(前週比4.7万kL増)。軽油の輸出は12.4万kL(前週比8.3万kL減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリンが減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は77.8万 kL(対前週10.2%減)と前週比で2週連続で減少となり、2週連続で100万kLを下回った。ジェット8.2万kL(対前週17.0%増)、灯油61.9万kL(対前週70.5%増)、軽油64.6万kL(対前週197.9%増)、A重油32.2万kL(対前週

EIAによると、1月14日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.0セント値上がりの1ガロン2.247ドル(64.9円/㍑)、ディーゼルは前週比3.7セント値下がりの2.976ドル(86.0円/㍑)となった。ガソリンは14週ぶりの値上がり、ディーゼルは13週連続の値下がり。

168.6%増)、C重油14.8万kL(対前週49.4%増)。

(単位:千kL)

	今週 (1/6 ~ 1/12)	前週 (12/30 ~ 1/5)	前週比
ガソリン	778	867	▼ -89 (-10%)
ジェット燃料	82	70	▲ 12 (17%)
灯油	619	363	▲ 256 (71%)
軽油	646	217	▲ 429 (198%)
A重油	322	120	▲ 202 (168%)
C重油	148	99	▲ 49 (49%)
合 計	2,595	1,736	▲ 859 (49%)

※今週出荷量 = (前週末在庫+今週生産+今週輸入) - (今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月12日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、ジェットが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは181.3万kL、前週差11.3万kL増。前年に対しては0.6万kL少ない。

灯油は227.7万kL、前週差20.1万kL減。前年に対しては26.8万kL多い。

軽油は186.1万kL、前週差1.8万kL減。前年に対しては11.8万kL多い。

A重油は83.3万kL、前週差6.8万kL減。前年に対しては12.0万kL多い。

C重油は211.5万kL、前週差3.5万kL増。前年に対しては11.8万kL多い。

(単位:千kL)

	今週 (1/12)	前週 (1/5)	前週比
ガソリン	1,813	1,700	▲ 113 (7%)
ジェット燃料	922	901	▲ 21 (2%)
灯油	2,277	2,478	▼ -201 (-8%)
軽油	1,861	1,879	▼ -18 (-1%)
A重油	833	901	▼ -68 (-8%)
C重油	2,115	2,080	▲ 35 (2%)
合 計	9,821	9,939	▼ -118 (-1.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月8日から1月14日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替レートもわずかに円安で、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、1月8日～1月14日の間、ガソリン106～107円台で値下がり、軽油56円台でやや値下がりし、灯油56円台でやや値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン108円台でやや値上がり、軽油57～60円台で出入り激しく、灯油54～55円

台でわずかに値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン102～104円台で大きく値上がり、軽油59～60円台で値上がりし、灯油55～57円台で大きく値上がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに2.5～3.0円の値上げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

今週の製品スポット市況は、前週平均と比べ、軽油が全取引で値下がりしたが、ガソリンと灯油は取引によって分かれた。

1月第3週(1月17日～23日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(1月8日～1月14日千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.1円の値下がり、灯油も1.0円の値下がり、軽油も1.4円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.5円の値下がり、灯油が2.8円の値上がり、軽油が1.1円の値下がりだった。

先物価格は、ガソリンが4.3円の値上がり、灯油も3.5円の値上がり、軽油は1.2円の値下がりだった。

1月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とともに2.5～3.0円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]	今週 (1/8 ~ 1/14)	前週 (12/25 ~ 1/7)	前週比	
ス レギュラー	53.0	54.1	▼ -1.1	
ト 灯油	56.1	57.1	▼ -1.0	
価 格 軽油	56.3	57.7	▼ -1.4	

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]	今週 (1/8 ~ 1/14)	前週 (12/25 ~ 1/7)	前週比	
先 物 價 格 レギュラー	49.9	45.6	▲ 4.3	
灯油	56.3	52.8	▲ 3.5	
軽油	59.9	61.1	▼ -1.2	

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/8～1/14実績値)			(単位: 円/%)
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.1	▲ 4.3	▲ 1.6
灯油	▼ -1.0	▲ 3.5	▲ 1.2
軽油	▼ -1.4	▼ -1.2	▼ -1.3
A重油	▼ -1.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

1月15日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.1円安い142.8円、軽油も同1.0円安い123.8円、灯油は同0.9円安い88.8円(18ドルベースでは15円安い1,599円)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに11週連続の値下がりだった。都道府県別には、値上がりが神奈川県1県、横ばいではなく、値下がりが46都道府県だった。全国最安値は埼玉県の135.8円(前週比1.7円安)、次が136.5円の愛知県(同1.4円安)と神奈川県(同0.2円高)、最高値は長崎県の156.6円(同1.2円安)であった。最も値上がりしたのは0.2円高の神奈川県(136.5円)だった。最も値下がりしたのは3.1円安の徳島県(140.3円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに1.0円の値下げと据え置きに分かれた。

今週は、原油価格が上がり、為替レートもわずかに円安で、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに2.5～3.0円の値上げに分かれた。次週(1月21日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値上がりが予想される。

(単位: 円/%)				
(資源庁公表) [週動向]	今週 (1/15)	前週 (1/7)	前週比	直近高値
小 売 價 格 レギュラー	142.8	143.9	▼ -1.1	08/8/4 185.1
灯油	88.8	89.7	▼ -0.9	08/8/11 132.1
軽油	123.8	124.8	▼ -1.0	08/8/4 167.4

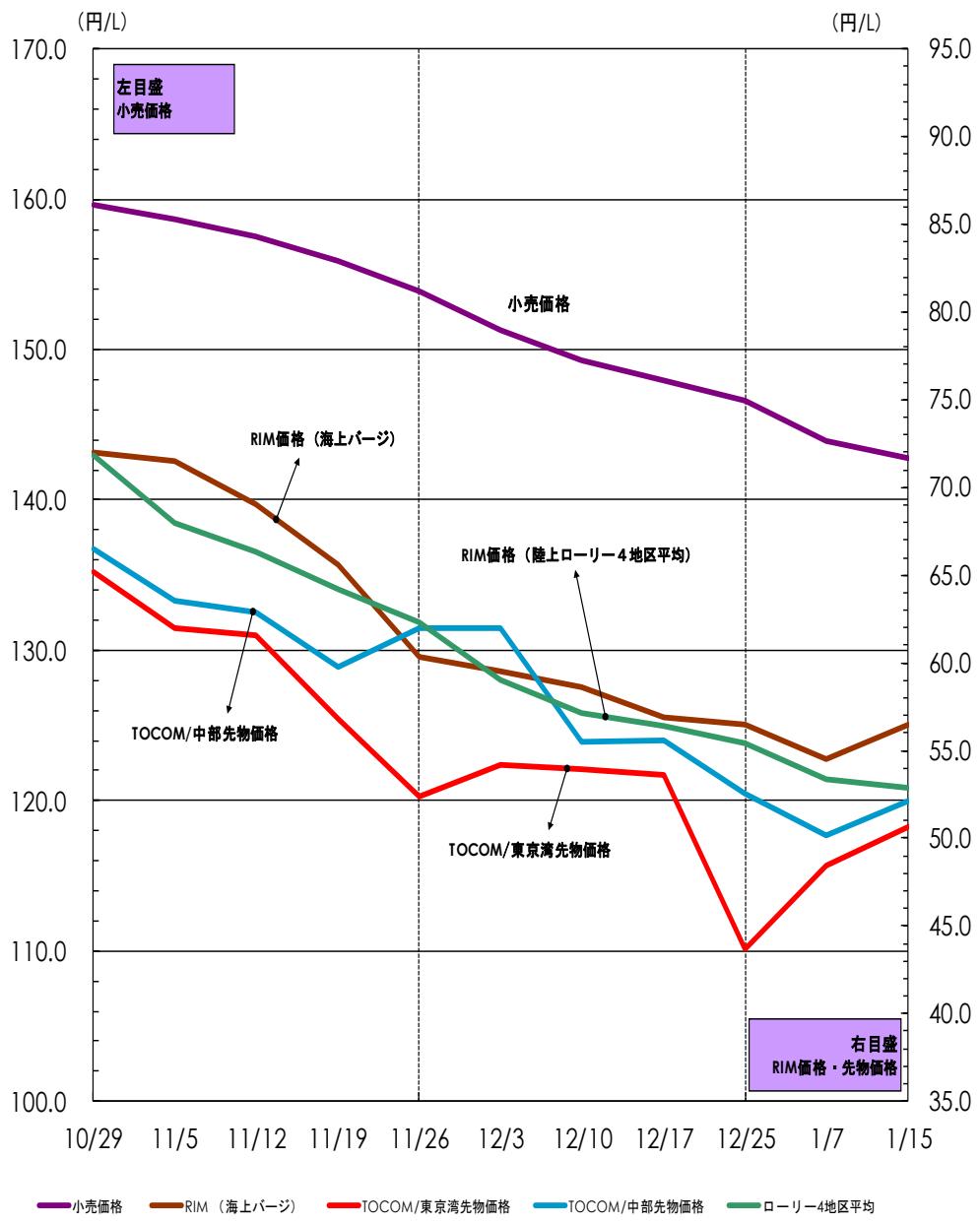
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/10/29 ~ 2019/1/15)



■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回（2018第40号）の公表は、1/25（金）14:00です。

「セルフSS出店状況」（平成30年9月末現在）は、12月19日（水）14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate : 中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資工庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁-HPIに掲載）。